メリークリスマス！

いよいよ一年の終わり、12月。子どもたちの頭の中はクリスマスでいっぱいでしょう。
ちょっと日本を飛び出して、海外のクリスマス文化をのぞいてみましょう。

ガウディ建築で有名なスペインでは、サンタさんの代わりに、ラクダに乗った黒髪、金髪、白髪の三人博士がプレゼントを届けてくれます。
そのスペインで生まれた絵本『ただいま、わたしの海』の日本語訳書が今年10月、あかね書房より出版され話題となりました。小学生から大人まで各世代の心に響くスペイン生まれの新刊絵本は、今年のクリスマスプレゼントにぴったり。

クリスマスを連想させる赤いカエデの葉が国旗のカナダは、11月半ばのパレードで郵便局のおじさんとポストの着ぐるみが、子どもたちからサンタさんへの手紙を預かりに来るんだって。

海外ではクリスマスと新年のお祝いが合体している国が多く、家族や親戚で集うことが一般的です。クリスマスカードと年賀状も合体しています。

みなさんのおうちには、どんなサンタさんがやって来るのでしょうか？

記事みゆ

12月のおすすめ絵本



『あんたがサンタ？』
佐々木マキ　文・絵
（絵本館）

こちらは、どこの国のサンタさんでしょうか？

ペンギンクイズ

ペンギンは羽が抜けると、新しい羽に生え変わりますが、生え変わっている間、できなくなることがあります。いったい、何でしょう。

①寝ること
②歩くこと
③海に入ること



クイズのこたえ＝③

ペンギンの羽は寒さから身を守る役割があります。生え変わる間は寒さで凍えてしまうので、海に入ることができません。その間、エサ（魚やオキアミ）を取りに行けないので、何も食べずに過ごしています。

参照：『やっぱりペンギンは飛んでいる!!』いとう良一 著
佐藤克文 監修（技術評論社）

記事ふく

今月のビブリオラボ「クリスマス展」

期間：12/2 ～ 12/25



11月30日「絵本の日」からはじまる、「クリスマスに絵本を選んで贈ろう」！
子どもたちが望んでいるゲームやキャラクターグッズはサンタさんにお任せして、パパ・ママからお子さまへ、心の奥底に根付く絵本を選んで贈りましょう。

読書という娯楽には、物語世界に入りこんで、日常にない体験を楽しむ喜びと発見があります。
乳幼児期から触れる絵本の場合、そこに介した大好きな年長者の存在もひっくるめて心に残るのです。
つまりは、ことばにして届けてくれるパパ・ママの声とまなざし、体温に愛、それらすべてが詰め込まれて絵本の想い出として根付くというわけです。
それは心の糧となる愛の種で、その種が実り「生きる力」へと成長します。その力を蓄えて、あたたかい記憶を糧にして巣立ち、やがて次の世代への種まきがはじまるのです。
この体験が、「想い出の絵本エピソード」として個々人の大切な宝物となります。
2026年、目を見張るほど成長したお子さまへ、届けたい想いと、クリスマスプレゼント絵本は決まりましたか。

紙面全文責・司書あん

ファーストクリスマスにぴったりのプレゼント★



『ツリーさん』
新井洋行 作
（講談社）

1歳から5歳児に大人気のクリスマス絵本



『クリスマス
トレインしゅっぱつ』
視覚デザイン研究所 作
くにすえたくし絵
（視覚デザイン研究所）

小学生には日本初上陸の有名本を



『ルドルフ
赤鼻のトナカイ』
ロバート・L・メイ作
デンバー・ギレン絵
中井はるの訳（世界文化社）